

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	<p>・日常的な外出支援 隣接する小学校の登下校時の旗振り(見守り)への参加や、外出時に地域福祉委員に同行して頂くなど、地域との関わりを持ちながら外出できるよう取り組んでおり、その機会は増えている。しかし、個別対応(本人様が希望する外出先等)という点においては、自己表出可能な方やいくつかのグループ別に分けての支援となっており、すべての方への個別対応(本人様が希望する外出先等)での外出となるとまだまだ十分ではない。また、家族様へも協力をお願い(事業所側からも実際に行動に移し、本人様の詳細について具体的に報告を行っている)し、選挙や墓参り、一時帰宅や外泊等の支援も引き続き行っているが、全ての方の(一時帰宅や外泊等)には至っておらず、本人様の認知症の進行やADL低下により家族様との外出機会や、外泊等の機会が減少してきている。</p>	<p>・外出回数の増加は基より、すべての方への個別対応(散歩や買い物等の外出先を本人様自身が決定され、職員や家族様が付き添うといった形態)での外出支援、一時帰宅や外泊等を実現できるよう、家族様や地域住民の方にも協力を仰ぎ取り組んでいく。</p>	<p>・自己表出可能な方の個別支援やいくつかのグループに分けてのグループ支援を継続しながら、自己表出の困難な方への個別支援へと拡大していけるよう、職員は基より、家族様や地域住民の方にも協力を仰ぎ取り組んでいく。 また、家族様への働き掛けとして、最初に事業所側で一度本院様の希望の場所へ外出し、結果報告をおし協力を仰ぐ取り組みは今後もを継続しながら、状況に応じて家族様との外出先への送迎等を事業所側で行う等、家族様と本人様との外出時にも職員が関わるなどの提案も行いながら、本人様と家族様との良好な関係構築への支援も同時進行で取り組んでいく。家族様の受け入れに関する抵抗感の減少を図り、全ての方の個別支援による外出が達成できるよう、ホーム内の全体会議やカンファレンス等をおし、職員間で経過や取り組みを共有し、課題解決へ向けて幅広く意見を拾い上げ、一歩ずつでも前進できるよう取り組んでいく。</p>	12ヶ月
2	6	<p>・身体拘束をしないケアの実践(玄関の施錠) ホーム内の研修(勉強会)や外部研修への参加をとおり、身体拘束に関する理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、身体に限定しない「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。 玄関の施錠が拘束に当たるということも全職員が理解・認識しているが、実際に離設された利用者様もおられ家族会の希望と建物の構造上施錠を行っている。</p>	<p>・施錠に替わる安全を担保できる手段について、再度幅広く意見を求め、さらなる検討を重ねる。</p>	<p>・今回の外部評価受診結果においてステップ項目に玄関の施錠について指摘されたことを、職員間は基より家族様、地域の方とも家族会や運営推進会議等で報告・共有し、施錠に替わる安全を担保できる手段について幅広く意見を求め、さらなる検討を重ねるなど段階を踏みながら取り組んでいく。</p>	12ヶ月
					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。